

緊急時における大学の遠隔授業の実施に関する調査結果に基づく通知

調査の概要

東海4県の国立大学法人は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、特例的な措置として、今年度前期において、98%の授業で遠隔授業を実施、後期も、80%の授業で遠隔授業を実施している(資料1、2、3)。総務省中部管区行政評価局は、大学で遠隔授業を有効かつ円滑に実施する方策について、調査を実施し、改善方策を検討

その結果、遠隔授業において、実施方法が学生に十分説明されていないおそれや、質疑応答等の機会の確保による教育効果が十分に担保されていないおそれがある等の状況がみられたため、令和2年12月11日、調査対象の国立大学法人に対し、必要な改善措置を講ずるよう通知

調査の視点

① 遠隔授業の有効かつ円滑な実施



質問したいけどできない…

どの授業にしようかしら…

質問できて、授業の内容がわかりやすい！

準備万端で授業に臨めた

② 学生のインターネット環境

通信環境が悪くて授業を受けられない…

大学でWi-Fiルータが借りられて、安心して授業を受けられる！

③ 学生の心のケア

ずっと一人誰に相談すればよいか…

オンラインで相談できて、安心だ！

1 遠隔授業における教育効果の担保等

調査結果① 遠隔授業における教育効果を担保するための措置

- 遠隔授業においても、教室で教員と学生が直接対面して行う面接授業に相当する教育効果を担保するため、教員・学生間の質疑応答機会の確保や学生が提出したレポートの教員による添削指導などが必要であり、調査対象の8国立大学では、その旨を教員に周知しているが、令和2年度前期の遠隔授業において、実際どのように教育効果が確保されていたかを把握していない。
- 当局が、調査対象の8国立大学の令和2年度前期授業及び後期授業における、各授業科目の詳細な授業計画であるシラバス(注)について抽出調査した結果、前期授業では1,449のうち855(59.0%)、後期授業でも1,377のうち534(38.8%)のシラバスにおいて、質疑応答の機会が設けられているか不明であるなど(資料4、5)、教育効果を担保するための措置が行われていないおそれがある。

(注) シラバスは、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもので、学生が履修する講義を選択する際の資料とするもの

調査結果② シラバスによる授業の実施方法の明示

- 調査対象の8国立大学は、面接授業に代替して遠隔授業を実施しているが、当局が、シラバスについて抽出調査した結果、前期においては1,449のうち868(59.9%)、後期でも1,377のうち481(34.9%)の授業において、面接授業・遠隔授業の別や、遠隔授業の場合その方法が、シラバスに記載されていない(資料6、7)。

改善意見(所見)

- 遠隔授業における面接授業に相当する教育効果を担保するための措置の実施状況を把握し、この措置が行われていない場合は必要な対応を行うこと (8大学全て)
- 学生が履修登録をする際に、授業の選択や事前の準備が適切にできるよう、全てのシラバスに授業の実施方法(面接授業・遠隔授業の別、具体的な実施方法)を明記すること (8大学全て)

調査結果① 学生のPC等の保有やインターネット環境の把握

- 調査対象の8国立大学は、**学生の通信環境に配慮した遠隔授業の実施方法やインターネット環境が整わない学生の支援などを検討するため、インターネット環境等の調査を実施している。**しかし、その実施状況をみると、**授業を開始するまでに以下のような必要な要素が把握されていなかった。**
 - i) ルータの貸出しなど個別の支援を行うためには、**個人の特定が必要**
 - ii) ウェブ会議システムを活用した授業を受講するためには、**一定のスペック（OSのバージョンやカメラ・マイク等）が必要**
 - iii) ウェブ会議システムを活用した授業やビデオ動画を活用した授業を受講するためには、**一定の通信容量が必要**

調査結果② 遠隔授業の受講に必要なインターネット環境等の周知

- 学生が遠隔授業を支障なく受講するために、**どのようなPC等やインターネット環境を整備すればよいかなどの情報が必要**であるが、調査対象の8国立大学中7大学では、
 - i) PC等について、**必要な機能などを周知していない、**
 - ii) **インターネット環境を整備するに当たって、通信容量に注意するよう周知していない状況がみられた。**



改善意見（所見）

- **授業の実施方法の検討やインターネット環境等の整っていない学生に対する適切な支援が実施できるよう、授業を開始するまでに、学生の情報通信機器の保有やインターネット環境の状況を把握すること**
(8大学全て)
- **学生が遠隔授業の受講に必要な情報通信機器を確保することやインターネット環境を整備する上で通信容量に注意することなどの情報を周知すること**

(岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学)

調査結果 学生の心のケアにおけるウェブ会議システムの導入

- 調査対象の8国立大学9保健管理センター（注）のうち**4保健管理センター**では、心のケアを行う方法として、新型コロナウイルスの感染防止、遠隔地に居住している学生等に配慮し、従来から行っている対面や電話等の方法に加え、**ウェブ会議システムを導入しているが、5保健管理センターでは、導入していない。**

また、**ウェブ会議システムを導入している4保健管理センターのうち、その旨を学生に周知しているのは、1保健管理センターのみ**となっている。

（注）保健管理センターは、学生や教職員の健康保持増進を図るための施設



改善意見（所見）

- **新型コロナウイルスの感染防止対策や、遠隔地に居住している学生に対する心のケアを行うため、保健管理センターで学生の心のケアを行う方法の一つとして、ウェブ会議システムを導入するとともに、この取組を学生に周知すること**

（静岡大学、浜松医科大学、愛知教育大学、豊橋技術科学大学）

- **保健管理センターにおいて、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの学生の心のケアを行っていることを、学生が把握しやすい方法で周知すること**

（名古屋大学、名古屋工業大学、三重大学）



調査実施期間：令和2年7月～2年12月
調査対象機関：岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、
名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、
豊橋技術科学大学、三重大学

【照会先】 総務省 中部管区行政評価局
評価監視部
第1評価監視官室 梅村賢一郎、都築孝之
電話：052-972-7425 FAX：052-972-7450
中部管区行政評価局ホームページ
<https://www.soumu.go.jp/kanku/chubu.html>

緊急時における大学の遠隔授業の実施に関する調査結果

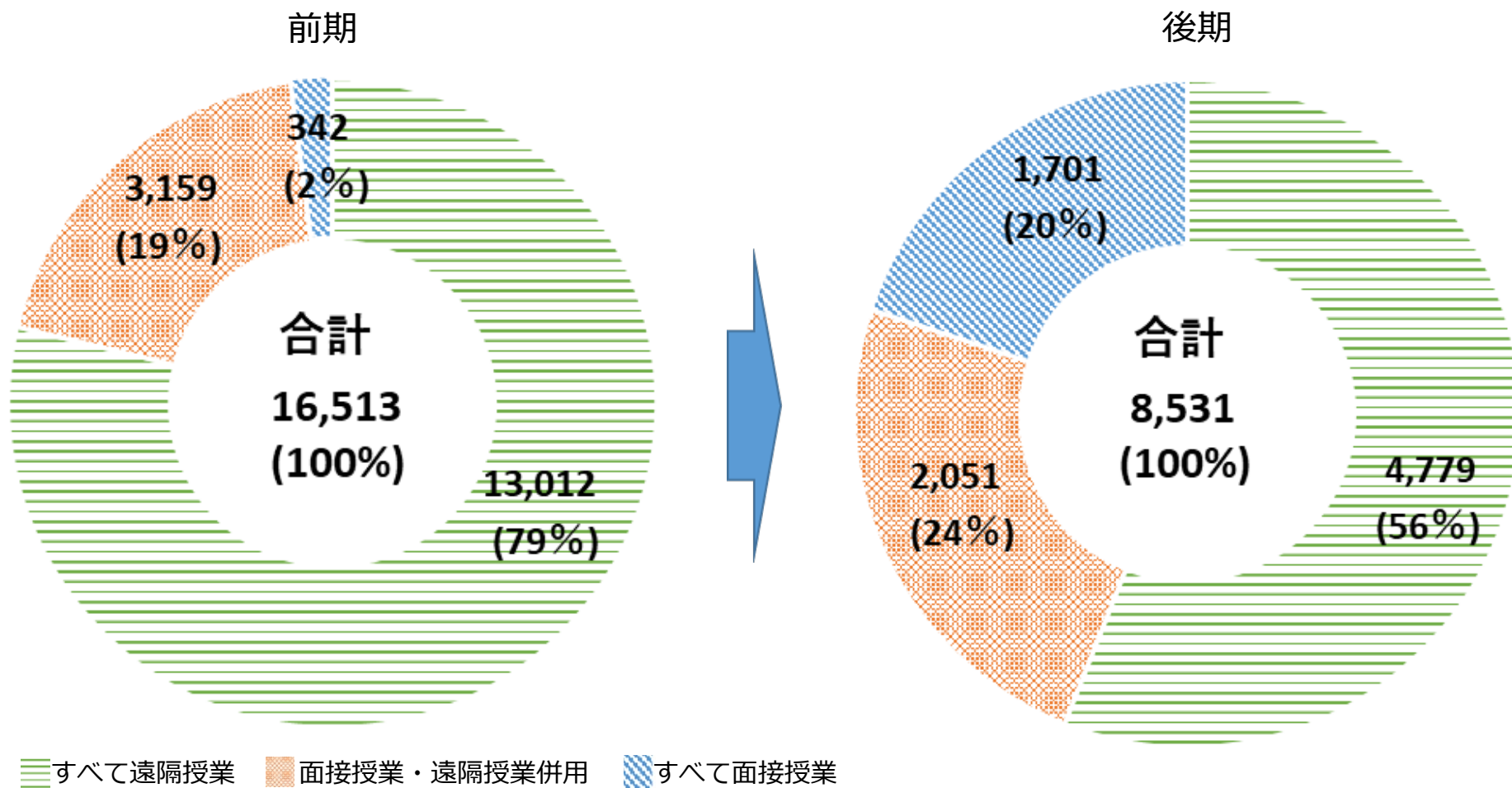
参 考 資 料

目 次

- ・ 資料1 令和2年度の授業実施方法
- ・ 資料2 令和2年度前期の授業実施方法別科目数（大学別）
- ・ 資料3 令和2年度後期の授業実施方法別科目数（大学別）
- ・ 資料4 令和2年度のシラバスにおける質疑応答等についての記載状況
- ・ 資料5 令和2年度のシラバスにおける質疑応答等についての記載状況（大学別）
- ・ 資料6 令和2年度のシラバスにおける授業の実施方法に係る記載状況
- ・ 資料7 令和2年度のシラバスにおける授業の実施方法に係る記載状況（大学別）
- ・ 資料8 令和2年度前期における授業の開始日
- ・ 資料9 早期に遠隔授業を開始した大学の事例
- ・ 資料10 学生の心のケアについての大学での積極的な取組
- ・ 資料11 調査対象の8国立大学の概要

令和2年度の授業実施方法

令和2年度前期において、8大学では、98%の授業において遠隔授業を実施。後期において、実施方法が判明している7大学では、80%の授業において遠隔授業を実施



(注) 前期に比し後期の調査数が少ないのは、前期では8大学すべての調査結果が得られたのに対し、後期では、岐阜大学については現在把握中で、判明したもののみ報告を受けたこと、名古屋大学においては、今後把握する予定のため、調査対象にならなかったことによるものである。

令和2年度前期の授業実施方法別科目数（大学別）

大学名	開講予定科目数	開講した科目数				開講しなかった科目数 (中止、延期等)
		すべて遠隔授業	面接授業・遠隔授業併用	すべて面接授業	計	
岐阜大学	2,005	932	392	192	1,516	489
静岡大学	3,053	2,467	534	0	3,001	52
浜松医科大学	168	97	41	25	163	5
名古屋大学	6,665	4,574	1,824	61	6,459	206
愛知教育大学	1,600	1,392	172	30	1,594	6
名古屋工業大学	1,119	962	138	3	1,103	16
豊橋技術科学大学	714	636	58	1	695	19
三重大学	2,152	1,952	0	30	1,982	170
合計 (比率)	17,476	13,012 (78.8)	3,159 (19.1)	342 (2.1)	16,513 (100)	963

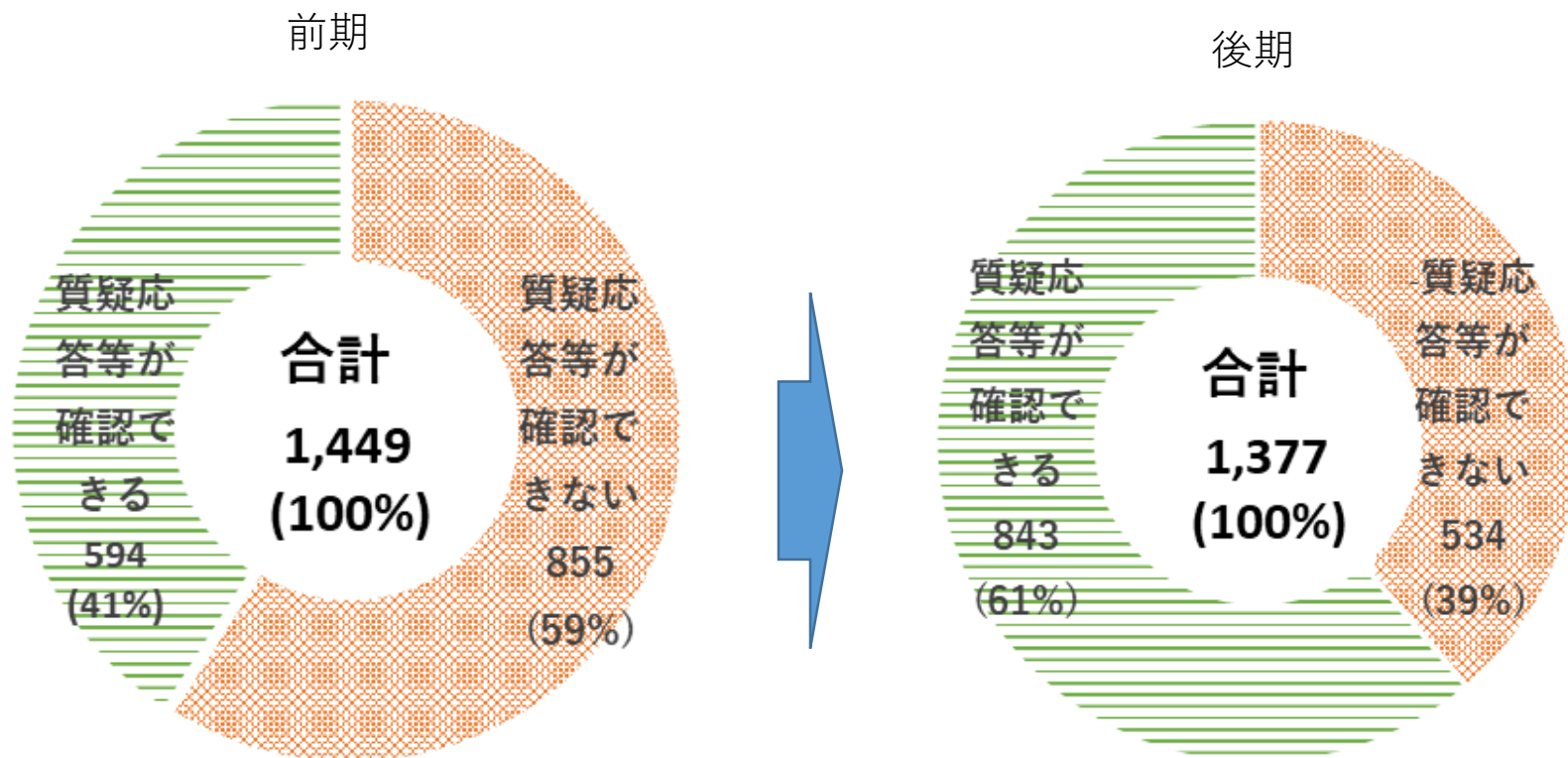
資料3

令和2年度後期の授業実施方法別科目数（大学別）

大学名	開講予定科目数	開講科目数				その他（中止、延期、未把握等）
		すべて遠隔授業	面接授業・遠隔授業併用	すべて面接授業	計	
岐阜大学	3,092	258	219	303	780	2,312
静岡大学	2,683	1,726	300	631	2,657	26
浜松医科大学	119	40	22	57	119	0
愛知教育大学	1,508	481	587	440	1,508	0
名古屋工業大学	676	332	328	16	676	0
豊橋技術科学大学	651	15	590	38	643	8
三重大学	2,189	1,927	5	216	2,148	41
合計 (比率)	10,918	4,779 (56.0)	2,051 (24.0)	1,701 (19.9)	8,531 (100)	2,387

- (注)1 「合計」欄の（ ）内は、令和2年度後期に開講している授業科目数に対する授業方法（遠隔授業、面接授業）別科目数の比率（％）である。なお、四捨五入の関係で比率の計は「計」欄の数（100）と一致しない。
- 2 岐阜大学については、現在把握中で、判明したものののみ報告を受けたことから、未把握の科目が多い。
- 3 名古屋大学については、今後、把握する予定のため、調査対象とならなかった。

当局で、調査対象の8国立大学の令和2年度のシラバスについて、総合大学で1学部、単科大学で1学科・課程を抽出し、全数調査した結果、質疑応答等が確認できないなど面接授業に相当する教育効果が得られていないおそれがあるものが前期で59%、後期でも39%



(注)1 通年の授業数は、前期に含む。

2 「質疑応答等が確認できる」としたものは、シラバスに以下の①～③のいずれかの記載があるもの

- ① 面接授業と記載
- ② 遠隔授業で、ウェブ会議システムによる同時双方向の授業と記載
- ③ メールアドレスの明示等により、学生から教員に問い合わせができる方法を記載

令和2年度のシラバスにおける質疑応答等についての記載状況（大学別）

大学名 (学部等名)	前 期			後 期		
	全授業数 (比率)	うち質疑応答 等が確認でき る (比率)	うち質疑応答 等が確認でき ない (比率)	全授業数 (比率)	うち質疑応答 等が確認でき る (比率)	うち質疑応答 等が確認でき ない (比率)
岐阜大学 (地域科学部)	182 (100)	68 (37.4)	114 (62.6)	239 (100)	138 (57.7)	101 (42.3)
静岡大学 (人文社会科学部)	235 (100)	139 (59.1)	96 (40.9)	331 (100)	276 (83.4)	55 (16.6)
浜松医科大学 (医学科)	129 (100)	88 (68.2)	41 (31.8)	56 (100)	38 (67.9)	18 (32.1)
名古屋大学 (法学部)	84 (100)	40 (47.6)	44 (52.4)	51 (100)	25 (49.0)	26 (51.0)
愛知教育大学 (初等教育教員養成課程)	352 (100)	87 (24.7)	265 (75.3)	294 (100)	192 (65.3)	102 (34.7)
名古屋工業大学 (生命・応用化学科)	50 (100)	5 (10.0)	45 (90.0)	54 (100)	10 (18.5)	44 (81.5)
豊橋技術科学大学 (機械工学課程)	212 (100)	85 (40.1)	127 (59.9)	151 (100)	80 (53.0)	71 (47.0)
三重大学 (人文学部)	205 (100)	82 (40.0)	123 (60.0)	201 (100)	84 (41.8)	117 (58.2)
合計	1,449 (100)	594 (41.0)	855 (59.0)	1,377 (100)	843 (61.2)	534 (38.8)

(注)1 通年の授業数は、前期に含む。

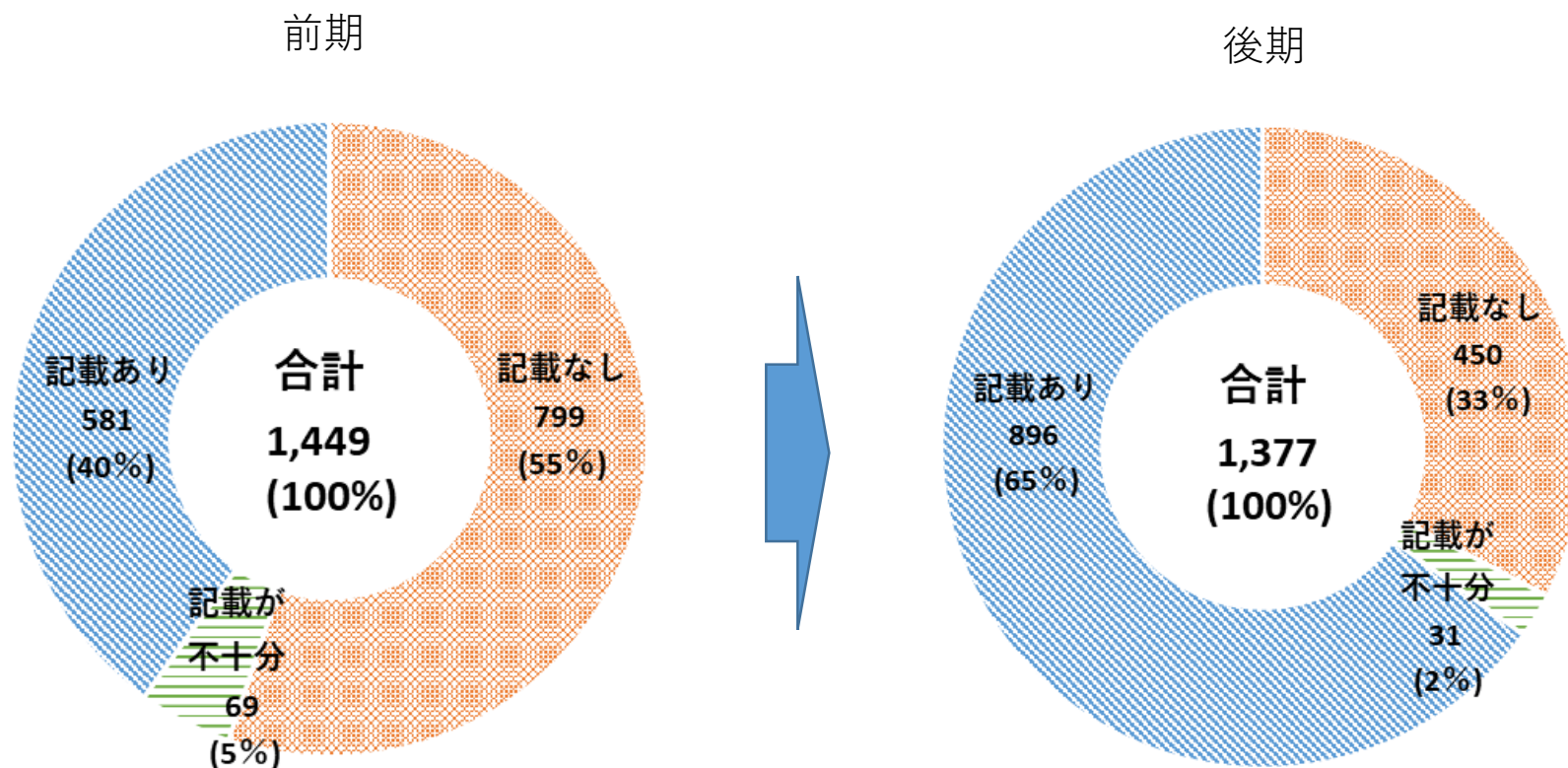
2 「質疑応答等が確認できる」としたものは、シラバスに以下の①～③のいずれかの記載があるもの

- ① 面接授業と記載
- ② 遠隔授業で、ウェブ会議システムによる同時双方向の授業と記載
- ③ メールアドレスの明示等により、学生から教員に問い合わせができる方法を記載

資料6

令和2年度のシラバスにおける授業の実施方法に係る記載状況

当局で、調査対象の8国立大学の令和2年度のシラバスについて、総合大学で1学部、単科大学で1学科・課程を抽出し、全数調査した結果、授業の実施方法が記載されていないもの及び記載が不十分なものが60%、後期でも35%



(注)1 通年の授業数は、前期に含む。

2 「記載なし」は、面接授業、遠隔授業の別の記載がないもの

「記載が不十分」は、遠隔授業との記載はあるが、ウェブ会議システムによる授業で実施するか、教材配信によるオンデマンド授業で実施するかの判別がつかないもの

大学名 (学部等名)	前 期				後 期			
	全授 業数 (比率)	うち 記載あり (比率)	うち 記載不十 分 (比率)	うち 記載なし (比率)	全授 業数 (比率)	うち 記載あり (比率)	うち 記載不十 分 (比率)	うち 記載なし (比率)
岐阜大学 (地域科学部)	182 (100)	90 (49.5)	10 (5.5)	82 (45.1)	239 (100)	149 (62.3)	10 (4.2)	80 (33.5)
静岡大学 (人文社会科学部)	235 (100)	177 (75.3)	5 (2.1)	53 (22.6)	331 (100)	327 (98.8)	1 (0.3)	3 (0.9)
浜松医科大学 (医学科)	129 (100)	0 (0)	0 (0)	129 (100)	56 (100)	0 (0)	0 (0)	56 (100)
名古屋大学 (法学部)	84 (100)	44 (52.4)	19 (22.6)	21 (25.0)	51 (100)	30 (58.8)	4 (7.8)	17 (33.3)
愛知教育大学 (初等教育教員養成課程)	352 (100)	258 (73.3)	34 (9.7)	60 (17.0)	294 (100)	260 (88.4)	7 (2.4)	27 (9.2)
名古屋工業大学 (生命・応用化学科)	50 (100)	0 (0)	0 (0)	50 (100)	54 (100)	5 (9.3)	1 (1.9)	48 (88.9)
豊橋技術科学大学 (機械工学課程)	212 (100)	12 (5.7)	1 (0.5)	199 (93.9)	151 (100)	125 (82.8)	8 (5.3)	18 (11.9)
三重大学 (人文学部)	205 (100)	0 (0)	0 (0)	205 (100)	201 (100)	0 (0)	0 (0)	201 (100)
合計	1,449 (100)	581 (40.1)	69 (4.8)	799 (55.1)	1,377 (100)	896 (65.1)	31 (2.3)	450 (32.7)

(注)1 通年の授業数は、前期を含む。

2 「記載なし」は、面接授業、遠隔授業の別の記載がないもの

「記載が不十分」は、遠隔授業との記載はあるが、ウェブ会議システムによる授業で実施するか、教材配信によるオンデマンド授業で実施するかの判別がつかないもの

令和2年度前期における授業の開始日

大 学 名	当初予定の授業開始日	実際の授業開始日（遠隔授業による。）	
岐阜大学	4月10日	4月20日	医学部看護学科
		4月22日	応用生物科学部共同獣医学科
		5月7日	教育学部、地域科学部、工学部、応用生物科学部（共同獣医学科以外）、全学共通教育科目
		5月11日	医学部医学科
静岡大学	4月9日	4月30日	全学
浜松医科大学	4月6日	4月6日	医学部医学科
	4月13日	4月13日	医学部看護学科
名古屋大学	4月10日	4月17日	全学
愛知教育大学	4月8日	5月7日	全学
名古屋工業大学	4月7日	5月14日	全学
豊橋技術科学大学	4月8日	5月11日	全学
三重大学	4月10日	4月17日	医学部、工学部、生物資源学部
		5月14日	人文学部、教育学部
		5月15日	教養教育院

(注) 本表では学部の状況を記載し、大学院の状況は省略した。

早期に遠隔授業を開始した大学の事例

大学名	浜松医科大学	名古屋大学	静岡大学
事例の概要	使用するウェブ会議システムを全学的に特定して遠隔授業の実施方法を決定したことが、短期間での準備に寄与	早い時期に、学習支援システムによるオンデマンド授業の導入を決定したことが、全面的な遠隔授業の早期実施に寄与	従来から推進していたオンライン教育のノウハウ等が遠隔授業の早期実施に寄与
遠隔授業開始日	令和2年4月6日 (当初予定の授業開始日どおり)	令和2年4月17日 (当初予定の授業開始日を1週間遅らせたのみ)	令和2年4月30日 (4月8日に遠隔授業実施を決定してから約3週間と、比較的短期間の準備で授業開始)
早期に遠隔授業を開始できた要因	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 大学執行部が中心となって新型コロナウイルス感染症の危機管理対策を検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 教員がウェブ会議システムによる遠隔授業の情報入手 </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 3月31日の検討会議で遠隔授業実施を決定 その際、使用するウェブ会議システムを特定 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 上記方針により約1週間で遠隔授業を準備(学生への周知、教員研修、ウェブ会議システムの整備など) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 遠隔授業の導入を早期に判断 3月9日策定の方針で、面接授業の3密回避の手段として遠隔授業を併用することを決定 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 3月中に遠隔授業の準備に着手 学習支援システムで教材を配信するオンデマンド授業が基本。このため、次の準備を実施 ○教員の研修 ○サーバの整備 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 4月2日、4月17日から全面的に遠隔授業により、授業開始することを決定 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 従来からオンライン教育を推進 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> オンライン教材を導入した授業の推進 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> オンライン教育用動画作成の教員研修 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 動画配信システムの構築(令和元年度) </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 4月8日、遠隔授業実施を決定 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 4月30日遠隔授業開始 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 配信システムにオンライン教材を掲載するオンデマンド授業 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 遠隔授業対応サイトに動画作成マニュアル等を掲載 </div>

資料10

学生の心のケアについての大学での積極的な取組

岐阜大学

岐阜大学の保健管理センターでは、精神科医1名と臨床心理士3名により、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、令和2年4月から対面、電話、メール及び**ウェブ会議システム**を活用して学生の心のケアを実施

また、夜間帯に心が不安定になり、心の問題が生じやすいことから、同月から毎週水曜日の**夜間に精神科医によるウェブ会議システムを活用したオンライン診察の枠（1人あたり最大50分）を設置**
なお、この取組を行っている精神科医は、夜間の診察時間に合わせて、勤務時間を変更



日中



夜間（19時・20時）

調査対象の8国立大学の概要

大学名	学生数	教員数			学部等・大学院の状況	
		常勤	非常勤	計	学部等数	研究科数
岐阜大学	7,326人	868人	473人	1,341人	6	10
静岡大学	10,229人	826人	389人	1,215人	7	5
浜松医科大学	1,216人	384人	176人	560人	1	1
名古屋大学	16,114人	2,330人	1,376人	3,706人	9	13
愛知教育大学	4,073人	202人	225人	427人	1	1
名古屋工業大学	5,830人	357人	112人	469人	1	1
豊橋技術科学大学	2,084人	189人	72人	261人	1	1
三重大学	7,044人	781人	691人	1,472人	5	6

(注)1 「学生数」及び「教員数」は令和2年5月1日現在の数である。

また、学生数は、学部生、大学院生、聴講生等の計である。

2 「学部等数」は学部及び学環の数である。